

しぼり染め・脱色を用いた廃棄デニムのリサイクル提案

A20AB092 永田 爽香

1. はじめに

現在、日本ではファストファッションの流行により、衣服を簡単に低価格で手に入れることができるようになった。2020年12月～2021年3月の環境省が実施した日本で消費される衣服と環境負荷に関する調査によると、年間一人当たり衣服を18枚購入し、12枚手放し、25枚着用されていない服があるということが調査結果¹⁾で示されている。

一方、伝統工芸の課題として①需要の減少②後継者の不足③原材料・用具等の不足といった課題に直面し、伝統工芸の維持・存続に苦慮している状況²⁾が確認されている。今回は名古屋市の伝統工芸である有松・鳴海しぼりを中心に取り上げた。

本研究ではリサイクル方法の提案と有松・鳴海しぼりについて興味をもってもらうためにブルーデニムを取り上げ、有松・鳴海しぼりの手法を用いて再生しようとするものである。有松・鳴海しぼりは単独で素晴らしい技術であるが、新しい感覚を導入し、新しい素材として再生させるために脱色という逆転の発想でリサイクル布地を作成し、一つの衣服を製作した。

なお、本研究は、今後のリサイクルへの興味関心、有松・鳴海しぼりの魅力の発信、一つのリメイク方法の提供として貢献できるものと考えられ有松・鳴海しぼりに興味関心につながると考える。

2. 有松・鳴海しぼりについて

有松は今から400年以上前の慶長13年、尾張藩の奨励によって、東海道の鳴海宿と池鯉鮒宿の間に開かれた村である。しかし、東海道沿いの村は耕地が少なく茶屋集落としての営みにも限界があったため、村の収入源として考え出されたのが「有松しぼり」であった。有松しぼりは竹田庄九 朗翁が新しい産業をと木綿に絞り染めを施した手ぬぐいを土産として売ようになったのが「有松しぼり」の始まりと言われている。³⁾

有松しぼりとは、愛知県名古屋市の有松地域で作られている絞り染め木綿の総称である。布を縫ったり畳んだり、糸で巻いたりするなどして染まらない部分を作り、模様を描き出す。現代に伝えられている絞りの技法は70種類、最盛期には100種類以上にも及び、種類の多さは世界一ともいわれている。代表的な有松しぼりの種類として三浦しぼり、手蜘蛛しぼり、縫（杵目）しぼり、鹿の子しぼり、手筋しぼりなどがある。



図1-1 有松・鳴海しぼり会館

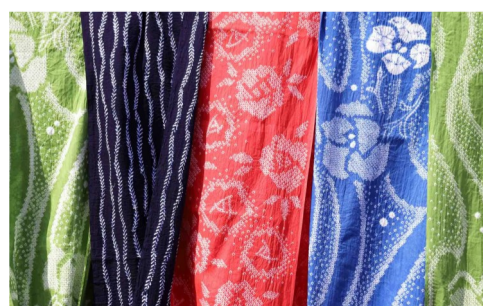


図1-2 有松・鳴海しぼりの例

3. 作品制作のための予備実験

3-1 色抜き実験

まず、実際にブルーデニムの色を抜くことができるのかを実験した。色抜き実験について図2-3に示す10cm×10cmのブルーデニムを試料として用意し、実験用の布を上から約1cmのところまでを絞った。また、脱色しやすくするため洗剤で一度洗う。ハイターの原液を絞った布がすべてつかるぐらい入れる。1時間つけおきして脱色する。1時間後水で洗い乾かした結果を図2-4に示した。また、実際使用するデニムでの実験を進めていく中で脱色した際に図2-5に示したような茶色になりすぎたものは使用しないことにした。



図2-1 使用したハイター



図2-2 実験の様子



図2-3 試料布



図2-4 実験結果



図2-5 使用しなかったデニム



図2-6 使用したデニム

3-2 色付け実験

ホワイトデニムを使用して色付け実験も行った。図3-1に示す染色キットを使用してホワイトデニムに色付けを行った。藍染め液を用意し、染めるものを水で濡らす。試料布は色抜き実験同様10cm×10cmのホワイトデニム地を試料として用意し、実験用の布を上から約1cmのところまでを絞った。色付け後よく水で洗い絞った部分をほどこき再度洗う。その後乾かした結果を図3-3に示した。



図3-1 染色キット



図3-2 試料布



図3-3 実験結果

4. 作品制作

4-1 デザイン画

デザイン画を図4に示す。絞りの柄デザインには、有松・鳴海しぼりでよくみられる柄に近いものを取り入れ、柄とした。デザインとして図5の3種類とした。

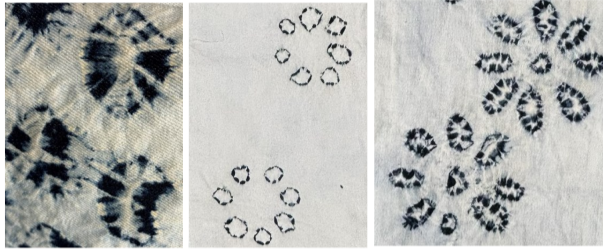


図5 3種類のしぼりデザイン



図4 デザイン画

4-2 廃棄デニムを使用したスカートとジャケット

家庭で廃棄されたデニムを集め、その生地予備実験で作成した絞りをういてスカートとジャケットを作成し、一つのリメイク方法の提案することを目的に制作を行った。



図6 廃棄デニム

4-3 制作方法

1) スカート

スカートについては、デニムでとれる最大の丈の長さを考慮し、モデルサイズに合わせてパターンを起こした。

次に廃棄デニムを切り開き、パターンに合わせ裁断し、8つのパーツを製作した。また、ブルーデニムを色抜きしたものと同ホワイトデニムを色付けしたものを隣同士の絞りの柄が同じにならないように配置して縫製した。ベルトに使用している布も廃棄デニムを使用している。



図7 スカートパターン

図8 実際の並び

2) ジャケット

ジャケットは、廃棄デニムを使用してモデルサイズに合わせてパターンを制作し、裁断、縫製した。ジャケットの後ろ身頃はデニムスカートを使用し、前身頃はパンツの片足を一本ずつ使用した。後ろ身頃はデニムスカートを使用したため一枚の布になったので使用している3種類の絞りのデザインを全体的にいきたるようにした。

前身頃のデザインは2種類をメインとして使用し、デザインが交互になるよう袖と前身頃を縫製した。襟の表にはデザインを付け裏はそのまま付けた。



図9 ジャケットパターン

4-4 完成作品

完成作品を図10に示す。合計9枚のデニムを使用し、制作を行った。



図10 完成作品

5. おわりに

本研究では、ファストファッションの流行により着用されなくなった衣服の増加によつての3Rの現状と中でもリサイクルの部分に焦点をあてた。リサイクルの発想としてTシャツの染色などが一般的にあるが本研究では逆の発想であるブルーデニムの色を抜くことを提案し、そこに伝統工芸である有松・鳴海しぼりを取り入れることでデザインをつけることにした。

伝統工芸である有松・鳴海しぼりにおいても需要や後継者の減少などの問題を抱えているため少しでも有松・鳴海しぼりに興味・関心を持ってもらうことが大切であると考えた。

作品制作においては、リサイクルへの興味、新たに生まれ変わる衣服制作の楽しさなどを感じることができた。また、自分自身の有松・鳴海しぼりへの興味・関心にも繋がった。

本作品を通してリサイクル・リフォームなどの3Rの活性化や有松・鳴海しぼりに対する興味・関心に繋がれば幸いである。

なお本研究は日本色彩学会東海支部ヤングセミナーにて発表予定である。

6. 参考文献

- 1) 環境省_サステナブルファッション
https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/
- 2) 総務省 報道資料 伝統工芸の地域資源としての活用に関する実態調査
https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/hyouka_220610000157890.html
- 3) 有松・鳴海絞会館 有松絞りとは
<https://shibori-kaikan.com/tiedyeing>